

《小学校 国語》

他者との対話によって考えを深める児童の育成 ～思考過程の可視化と交流活動の工夫を通して～

那覇市立城南小学校教諭 下地 達也

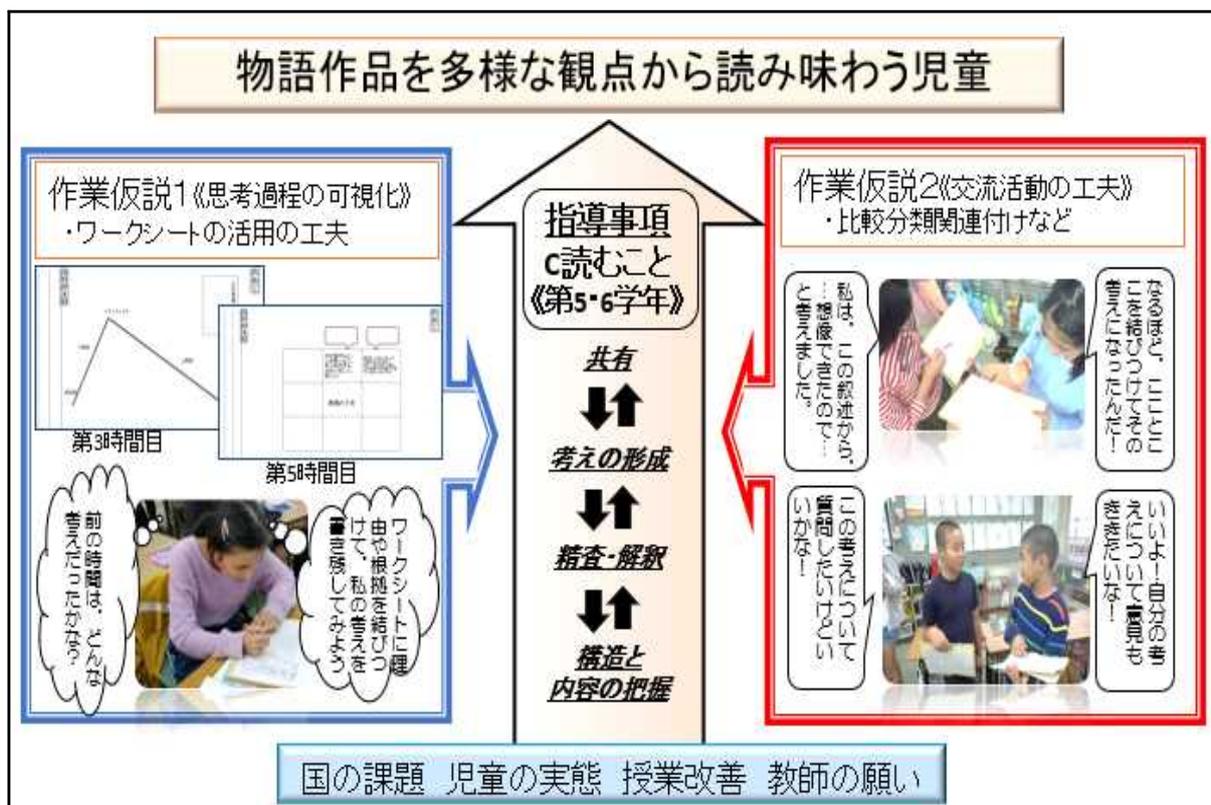
〈研究の概要〉

他者との対話によって考えを深める交流活動を展開していくために、思考過程を明確にする工夫や交流活動の工夫について改善が必要だと考えた。

本研究では、課題解決を図る場において、考えの思考過程が見えるワークシートの活用を工夫することや、交流活動において、互いの考えを共有し、自分の考えと比較・分類・関連付け等を行う交流の工夫を行った。

この実践を通して、他者との対話によって多様な観点から自分の考えを再構築し、考えを深める児童の姿が見られた。

〈研究のイメージ〉



I	テーマ設定の理由	33
II	研究目標	33
III	研究仮説	34
	1 基本仮説	
	2 作業仮説	
IV	研究構想図	34
V	研究内容	34
	1 「他者との対話によって考えを深める」とは	
	2 対話について	
	(1) 対話の対象について	
	(2) 考えを深めるための対話について	
	3 指導の手立て	
	(1) 思考過程を明確にする手立て	
	(2) 多様な観点から考えの再構築を図る交流活動の工夫	
VI	授業実践（第5学年）	37
	1 単元名	
	「心に残るとっておきの文章を報告カードで伝えよう！～いざ！名探偵5年2組！～」	
	教材名 「雪わたり」他宮沢賢治作品	
	2 単元目標	
	3 単元の指導計画(全11時間)	
	4 本時の学習(6/11時間)	
	(1) 本時の目標	(2) 授業仮説
		(3) 本時の展開
VII	結果と考察	38
	1 作業仮説(1)の検証	
	【結果】【考察】	
	2 作業仮説(2)の検証	
	【結果】【考察】	
VIII	成果と課題	40
	1 成果	
	2 課題	
	《主な参考文献》	

他者との対話によって考えを深める児童の育成 ～思考過程の可視化と交流活動の工夫を通して～

那覇市立城南小学校教諭 下地 達也

I テーマ設定の理由

国語教育の改善・充実を図るためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点に立った授業改善に取り組んでいくことが重要である。中央教育審議会答申（2016.12）では、「『対話的な学び』の実現に向けて、例えば、子供同士、子供と教職員、子供と地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり協働したりすることや、本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。」と述べられている。

これまでの実践を振り返ると、言語活動を行う学習場面を計画的に設けたことで、児童は自分なりの考えに理由や根拠等をもって交流活動を行い、共通点や相違点を見い出すことができるようになった。しかし、交流において新たな観点から再び考えを形成し、深めることがまだ不十分である。児童アンケートにおいて、「話の内容について、足りないところを聞く」「さらに詳しく聞き返したり、同意・反論したりする」の項目については、肯定的に捉えた児童が64%と少ない。このことから、交流活動の場面において、自分の考えを他者に伝えるだけであったり、お互いの考えを確認し合うだけにとどまっていたりしていたと考えられる。

その要因として、自分の考えの過程を交流に生かすための工夫や、児童が他者と考えを共有する場面において、自分の考えと他者の考えを比較、分類、関連付けることなどができるようにするための工夫が足りなかったのではないと思われる。以上のことから、他者との対話によって考えを深める交流活動を展開していくために、思考過程を明確にする工夫や交流活動の工夫について改善が必要だと考えた。

そこで本研究では、課題解決を図る場において、思考過程が見えるワークシートの活用を工夫することや、交流活動において、互いの考えを共有し、自分の考えと比較、分類、関連付け等を行う工夫を通して、他者との対話によって多様な観点から自分の考えを再構築することができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

他者との対話によって考えを深める児童を育成するために、思考過程の可視化と交流活動の工夫を行い、その有効性について検証する。

Ⅲ 研究仮説

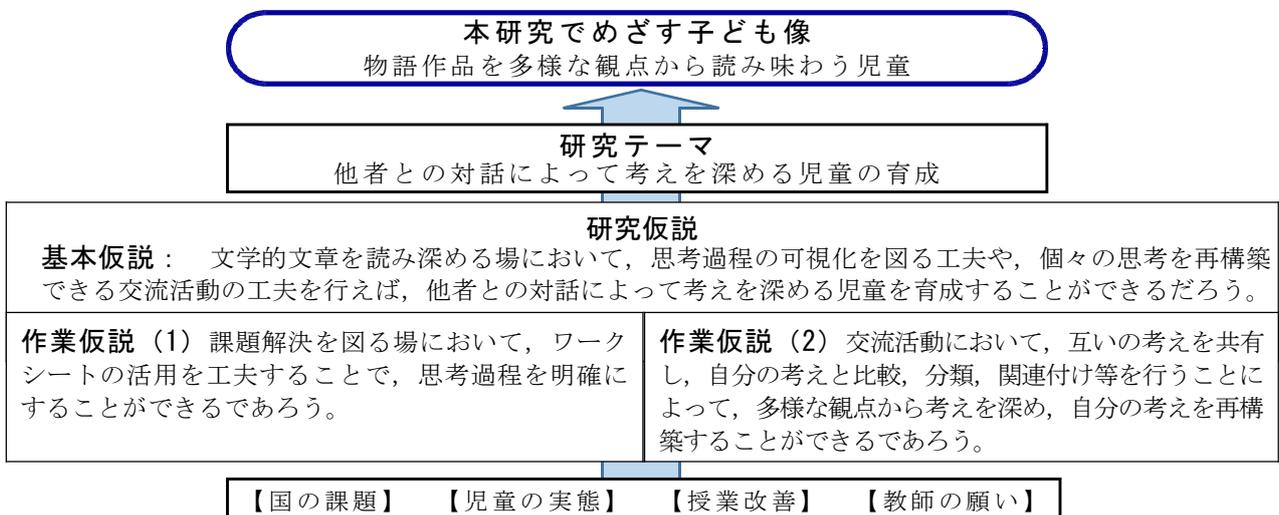
1 基本仮説

文学的文章を読み深める場において、思考過程の可視化を図る工夫や、個々の思考を再構築する交流活動の工夫を行えば、他者との対話によって考えを深める児童を育成することができるだろう。

2 作業仮説

- (1) 課題解決を図る場において、ワークシートの活用を工夫することで、思考過程を明確にすることができるであろう。
- (2) 交流活動において、互いの考えを共有し、自分の考えと比較、分類、関連付け等を行うことによって、多様な観点から考えを深め、自分の考えを再構築することができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容

1 「他者との対話によって考えを深める」とは

小学校学習指導要領解説国語編(2017)では、学習過程の明確化を図り、全ての領域において「考えの形成」に関する指導事項が示されている。文学的文章における「C読むこと」(高学年)の「考えの形成」では、「文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたこと」を基に、「既存の知識や理解した内容と結びつけて自分の考えを形成すること」を示している。また、「共有」においては「文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して、意見や感想を」もち、それを共有することで「互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりすることが大切である。」と示している。

つまり、他者との対話によって考えを深めるためには、教材文の精査・解釈を基に既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成しておくことが大前提であると言える。

樺山(2017)は「『共有』という文言を単に共同で確認するという意味で捉えるのではなく、自らの考えが他者の考えによって揺さぶられ、その結果、さらに広く、深

い読みが形成されるという意味で捉えることが必要である。」と述べている。単に互いの考えを発表し合ったり、確認し合ったりするだけの対話では「共有」することはできず、他者の考えに対し、「なぜ違うのか」「どうしてこの考えになったのか」などと対話をくり返すことで、自他の考えの理由や根拠等を明らかにしたり、新たな気付きを発見し考えが深まったりすることができる。このように、「他者との対話によって考えを深める」とは、文章を読んで理解した内容を基に、交流において新たな観点から考えが形成し深めていくことである。

これらを踏まえ、本研究においては、「他者との対話によって考えを深める」児童の姿を実現するため、教材文の精査・解釈を基に既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成するための手立てや、「他者との対話」によって考えを深める交流活動の工夫が必要であると考えられる。

2 対話について

(1) 対話の対象について

樺山(2016)は「授業とは、教材、自己、そして他者との対話によって成立する。」と述べ、「読むこと」の領域における対話の構造を図1のように示している。また、「自己との対話や子ども同士の対話が効果的なもの

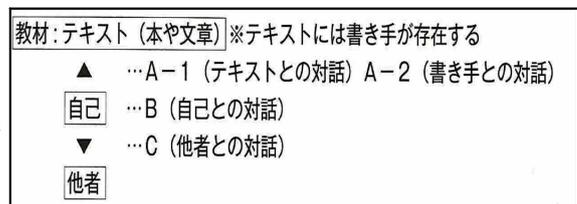


図1 「読むこと」領域における対話の構造(引用)

になるような働きかけを行うものである。」と述べている。その教師の働きかけとして、教材や自己との対話においては、児童に登場人物の相互関係や心情の変化、描写や表現の効果など様々な観点から読ませることで、読みを広げることができると考える。また、それらと既存の知識や理解した内容と結び付けていくことで自分の考えを形成していくことができると考える。他者との対話においては、互いの意見や感想の違いから新たな気付きを発見させることで、考えを深めることができると考えられる。このように、教材・自己・他者の3つの対象に対し、教師が授業の中で効果的な働きかけをすることで児童の学びが深まっていくと捉えた。

(2) 考えを深めるための対話について

長崎(2011)は「『個の読み』→『場の交流』→『個のまとめ』という一連の学習過程の中では概ね、テキストとの対話→他者との対話→自己との対話」という対話学習が行われることになる」と述べている。また、「『場の交流』で得た同質性や異質性が、「個の読み」の進化を促し、変容を促すことになるのである。」と述べている。場の交流では単に、「考えが同じか、違うか」を確認するのではなく、「そう思ったのはどうしてか、なぜそう考えたのか」と、他者の考えの理由や根拠などを追求することで新たな気付きを発見することが重要である。その発見から理解したことを基に、自分の考えを深めていくことができると考える。

したがって、「考えを深めるための対話」とは、互いの考えの理由、根拠などを追求することで、多様な観点から自分の考えを深めていく対話のことであると捉えた。

3 指導の手立て

(1) 思考過程を明確にする手立て

自分自身の考えを叙述と結びつけながら明確に捉えさせる手立てとして、思考の可

視化が有効であると考えられる。

細川(2017)は、「自分の考えをまとめる」や「子ども同士の学び合い」について思考の可視化を図ることが有効であることを示している。そこで、教材の精査・解釈において児童の思考を可視化することで、考えの形成を図る手立ての工夫につながると考える。図2で示す思考ツールを取り入れたワークシートの活用を工夫することにより、想像したり考えたりしたことを理由や根拠等と結びつけ、考えの思考過程を明確にすることとした。

	プロット図	マンダラート
思考ツール		
活用の仕方	文章を読むとき、どのように話が展開しているのか捉えるために、導入部・上昇部・クライマックス・下降部・終末部の5つ部分に登場人物や場面設定、人物の会話文、行動などについて気付いたことやわかったことを書かせる。	表現の工夫として情景描写や会話、比喩、反復、擬音語、色彩語等の叙述をマス目の中に書かせる。また、その叙述について、想像したり考えたりしたことを吹き出しに書かせる。
期待される児童の姿	教材文全体から読み取った事実(登場人物・会話文・行動など)を可視化することで、大体を捉えることができる。また、クライマックス(山場)に向かう文章の流れとして、登場人物の相互関係や場面の様子、中心人物の心情の変容などに気づくことができる。	表現の工夫から想像したことや考えたこと吹き出しに書かせ、可視化することで、思考を明確に捉えることができる。また、その吹き出しを比較・分類・関連付けながら、表現の効果などを捉えることができる。

図2 思考ツールを取り入れたワークシートの活用(『思考ツール』『創造性を高めるメモ学入門』を参考に筆者作成)

(2) 多様な観点から考えの再構築を図る交流活動の工夫

互いの考えの共通点や相違点を比較し、その理由や根拠を明らかにしながら対話することで、自分の考えを深めるためには、共有する場面において、互いの考えを比較、分類、関連付けることなどの思考方法を取り入れる交流活動の工夫が必要であると考えられる。

樺山(2017)は「比較したり関連付けたりすることで読みが深まっていく。話合いにおいては、AとBの考えが出され、どちらかを選んだり、その共通点をとってまとめたりする読みではなく、Aの考え、Bの考えから、新しいCやDの考えがうまれるような読みを目指したい」と述べている。

そこで、他者との対話により自分の考えを見つめ直し考えを深めさせていくために、交流活動の形態の特性を考慮した対話の場面を設定する(表1)。また、互いの考えを共有する中で、自分の考えと比較、分類、関連付けなどを行う思考方法(表2)を取り入れた交流活動を行うこととした。

主体性を考慮した交流	
形態	自ら相手を選ぶ交流「さんぼ」(2~3人)
教師の意図	自ら目的をもって主体的に課題を解決するために、考えを比べたい相手を自ら決めて話し合うことができる。
児童の姿	自分の課題を解決するために、考えを比べたい相手を選べる。また、互いの考えを理解するまで質問し合うことができる。
配慮事項	自ら目的を持って活動しなければならないため、課題を明確に持つ必要がある。

表1 課題解決学習に向けた交流活動の特性

思考方法	対象の内容
比較	複数の対象の共通点や相違点を明らかにする。
分類	複数の対象を共通点や相違点を観点にしてグループ分けすること。
関連付け	二つの対象同士を結びつけ、意味付けすること。

表2 思考方法と対象の内容

VI 授業実践（第5学年）

1 単元名 心に残るとっておきの文章を報告カードで伝えよう！～いざ！名探偵5年2組！～

教材名 「雪わたり」他 宮沢賢治作品

2 単元目標

人物や場面の描かれ方を読み味わいながら、宮沢賢治の作品に慣れ親しむことができる。

3 単元の指導計画（全11時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
0	物語作品についてこれまで読んだ経験を話したり、読書コーナーに並行読書の本をおいたりして興味関心を高めておくようにする。		
1次	1 ・学習の見直しをもつ。 ・全文を通読し、初発の感想や疑問におもったことを書く。	○教師のモデルを参考に物語の魅力を見つけるための視点を捉えさせるようにする。 ○初発の感想や疑問におもったことを視点を与えて書かせる。	〔関意態〕《ワークシート・観察》 ・単元の見直しを理解し、登場人物や表現の工夫について考えながら読もうとしている。
	2 「さぐってみたい問い」から計画を立てよう！ ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。	○自分の問いの中から、「さぐってみたい問い」を短冊に書かせる。 ○「問い」をもとに学習課題を設定し、単元の計画をたて、単元の見直しをもたせる。	〔読〕《ワークシート・発言》C(1)エ ・みんなで考えたい問いについて友達と意見交換しながら分類しようと考えることができる。
2次	3 「雪わたり」の構成についてさぐってみよう！ ・「雪わたり」の場面設定や登場人物などを大まかにとらえる。	○場面設定や登場人物などについて読み捉えた内容をプロット図に書かせる。 【プロット図の活用】	〔読〕《ワークシート・発言》C(1)エ ・雪わたりの場面の設定や登場人物について捉えている。
	4 登場人物を心情を表す表現についてさぐってみよう！ ・心情について印象に残る叙述をとらえ、自分の考えをまとめる。	○登場人物の心情が分かる表現の工夫を叙述から捉えさせる。	〔読〕《ワークシート・発言》C(1)エ ・人物の心情について書かれている叙述に着目して読んでいる。
	5 「雪わたり」の表現の工夫についてさぐってみよう！ ・表現の工夫について印象に残る文章をとらえ、自分の考えをまとめる。	○比喩や反復などの表現の工夫に気付かせる。また、その工夫から何が伝わるのか考えさせる。 【マンガラートの活用】	〔読〕《ワークシート・発言》C(1)エ ・表現の工夫について書かれている叙述に着目して読んでいる。
	6 「雪わたり」の心に残るとっておきの文章について自分の考えをはっきりさせよう！ ・心に残るとっておきの文章について、物語の魅力を見つける視点を基に交流し、報告の理由を明らかにする。	○交流時、他者と考えを比較し、考えの変容について朱書きで加筆修正を行わせる。 【交流活動：さんぽ】	〔読〕《ワークシート・発言》C(1)オ ・「雪わたり」の魅力について、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
	7 「雪わたり」の心に残るとっておきの文章を報告カードにまとめ、交流しよう！ ・心に残るとっておきの文章を中心に、物語の魅力を紹介する文章を書く。	○全文シートやこれまでのワークシートを生かしながら、報告カードに自分の考えをまとめさせる。 ○報告カードにまとめた文章を交流させる。	〔読〕《報告カード》B(1)イ ・物語の内容を引用したり、要約したりして、自分が心に残るとっておきの文章を相手に伝えるように書くことができる。
3次	8 「自分の選んだ本」について内容をさぐってみよう！ ・自分の選んだ本の全文を通読し、初発の感想や疑問におもったことを書き、発表する。	○初発の感想や疑問におもったことを書かせる。（書かせるとき、表現の工夫や登場人物の心情について視点を与える。）	〔関意態〕《ワークシート・観察》 ・単元の見直しを理解し、登場人物や表現の工夫について考えながら読もうとしている。
	9 「自分の選んだ本」の心に残るとっておきの文章について自分の考えをはっきりさせよう！ ・さぐってみたい問いについて交流し、課題解決をする。	○さぐってみたい問いを話し合わせる。 ○問いについてグループで考えさせる。	〔読〕《ワークシート・発言》C(1)オ ・「自分が選んだ本」の魅力について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
	10 「自分の選んだ本」の心に残るとっておきの文章を報告カードをまとめ、交流しよう！ ・心に残る文章について、物語の魅力を見つける視点を基に交流し、報告の理由を明らかにする。	○物語の魅力と感じた場面や叙述について、自分の考えや根拠を持たせ、交流させる。 ○交流時、他者と考えを比較し、考えの変容について朱書きで加筆修正を行わせる。	〔読〕《ワークシート・発言》C(1)オ ・「自分が選んだ本」の魅力について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
	11 これからの読書について考えよう！ ～宮沢賢治作品と出会って～ ・自分の選んだ本について報告カードを書く。	○作品の良さについて自分の考えの理由や根拠を基に書かせる。 ○ファンタジー作品を読んで自分の考えをまとめさせる。また、日常の読書活動について考えさせる。	〔読〕《報告カード》B(1)イ ・物語の内容を引用したり、要約したりして、自分が心に残るとっておきの文章を相手に伝えるように書くことができる。

4 本時の学習【6/11時間】

(1) 本時の目標

人物の心情を具体的に想像し、表現の効果を捉え、自分の考えをまとめることができる。

(2) 授業仮説

- 課題解決の場において、ワークシートに加筆修正を行うことによって、他者の考えとの違いを明確に把握することができるであろう。
- 交流活動において、自ら相手を選ぶ交流を行えば、自分が必要とする考えと出合い、思考を働かせることで考えの再構築を図ることができるであろう。

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価項目(方法)
導入 5分	1 「雪わたり」の内容や人物の性格、表現の工夫などについて前時までの学習を振り返る。	○これまでワークシートで自分の思考過程を振り返り、構成や人物の性格、表現の工夫から伝わったことなどについて触れさせる。	(思判表) (ノート・発言) (概ね満足)
めあて: 「雪わたり」の心に残るとっておきの文章について自分の考えをはっきりさせよう!			
展開 30分	2 「雪わたり」の心に残るとっておきの文章について報告する。 (1) グループで交流する。 (2) 考えを聞きたい相手に質問したり、答えたりする。《さんぽ》 (3) 他者の考えから分かったことや自分の考えが明確になったことをまとめる。 (4) 全体で交流する。	○「心に残るとっておきの文章」について自分の考えを確認させる。 ○「文章から何が伝わったのか」「文章どんな効果があったのか」について押さえさせる。 ○物語の魅力と感じた場面や叙述について、自分が選んだ理由をもたせ、交流させる。 ○自分とは違う考えや理由などをより多く探るため、考えを聞いてみたい友達と交流させる。 ○交流時、他者と考えを比較し、考えの変容について赤ペンで加筆修正を行わせる。 ○自分の考えが広がったことや深まったこと、または、他者の考えで印象に残ったことを発表させる。	・人物の心情を具体的に想像したり、表現の効果を捉えたりしたことを基に、自分の考えをまとめることができる。 (十分満足) ・人物の心情を具体的に想像したり、表現の効果を捉えたりしたことを基に、作者の想いに触れながら自分の考えをまとめることができる。
まとめ 10分	3 振り返りをする。 4 次時の学習について確認する。	○振り返りの視点を基に書かせる。 ○「雪わたり」の報告カードを書く活動について確認させる。	

Ⅶ 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

課題解決を図る場において、ワークシートの活用を工夫することで、思考過程を明確にすることができるであろう。

【結果】

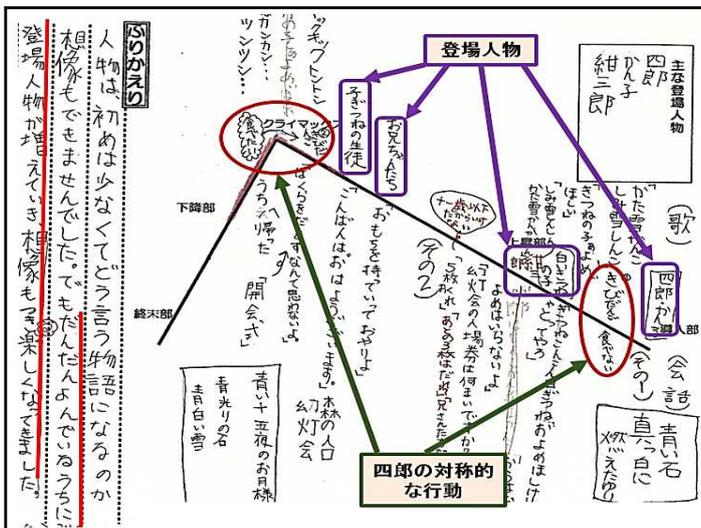


図3 児童Aの第3時ワークシート(フロッタ図)

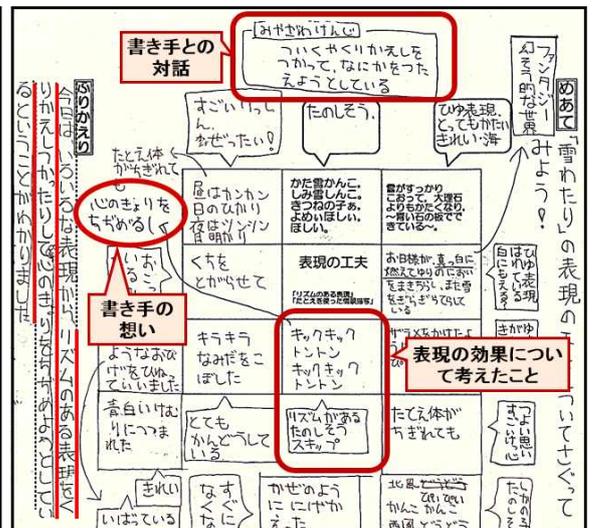


図4 児童Bの第5時ワークシート(マンダラート)

第3時において、文章の大体を捉えるため、プロット図を活用し登場人物の会話文、行動などについて読み取った叙述を書かせた。児童Aは、人物の言動と会話文や歌などを結びつけながら、四郎の導入部と山場との対称的な行動を押さえたり、幻灯会の場面を山場として捉えたりした記述が見られた(図3)。さらに、登場人物がだんだん増えている様子に気づき、物語の大きな流れを捉えている。

第5時では、表現の効果を探っていくため、マンダラートに文章の中にある情景描写や会話、比喩、反復、擬音語、色彩語などの表現の工夫を書かせた。また、マンダラートの周りに空間を作り、その空間に想像したことや考えたことを吹き出しで書き表すように指示した。児童Bは、様々な表現から分かる工夫について記述していた(図4)。また、対句や繰り返しの表現から書き手が何を伝えようとしているのかということにまで考えを巡らせている。その後、児童Bは、他者との対話を重ねワークシートに気付いたことを加筆しながら、新たな自分の考えについて記述していた。振り返りにおいても、表現の効果から気付いたことを記述していた。

【考察】

児童Aはプロット図に読み取った叙述を書き入れることで物語の大体を捉えることができたと考える。児童Bは、叙述とその叙述に対する考えたことや想像したことをワークシートに記入することで思考過程を明確にできたと思われる。また、交流後、表現の効果から、全体像や人物の相互関係に迫る考えが記述されており、考えが深まったことが分かる。しかし、プロット図やマンダラートに何を書いているのか困っていた児童が見受けられたことから、ワークシートに何を書くのか、何をねらいとしているのかを児童に明確に示す必要がある。

2 作業仮説(2)の検証

交流活動において、互いの考えを共有し、自分の考えと比較、分類、関連付け等を行うことによって、多様な観点から考えを深め、自分の考えを再構築することができるであろう。

【結果】

第6時において、児童は自分の考えを明確にするために、自ら相手を選ぶ交流活動を行った。その結果、児童Bの考えの変容が交流を通して見られた(図5)。選んだ叙述に対し、交流前は、紺三郎の視点で考えを記述していたが、交流後には、四郎の視点でも考えが記述されており、新たな観点から考えをまとめた。また、新たに関連する叙述や第5時の読みを考えに結びつけたり、まとめ直したりしていた。さらに、交流を通して、相手との考えの相違点から、自

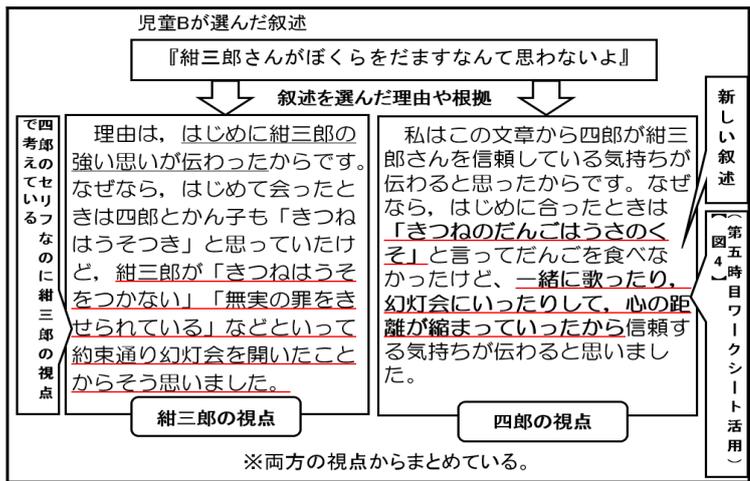


図5 交流後の考えの事例①

《児童Bのふりかえり》
 みんなの心に残るとっておきの文章を聞いて、自分と違うところや同じところなどを見つけて、自分の考えをはっきりさせたり、修正したりできて良かったです。

図6 交流における児童の反応

分の考えが明確になったり、修正できたりするなど肯定的な反応が見られた(図6)。しかし、児童Bと同じ叙述を選んだ児童Cは、気持ちや行動の変容を捉えているが、その変容の理由や根拠を深めることができなかつた(図7)。

児童Cが選んだ叙述の理由や根拠
理由は、四郎は少しぎよつとしてかん子を後ろにかばつてのところでびっくりしているのに、最後に気持ちが変わったからです。あと「きつねのだんごはうさのくそ」というかん子もきびだんごを食ふたのできつねを信用したことが伝わってきたからです。

四郎・かん子の視点

図7 交流後の考えの事例②

学級の課題として挙げた2つの項目(「話の内容について、足りないところを聞く」「さらに詳しく聞き返したり、同意・反論したりする」)について

単元終了後に質問を行った。すると、それぞれの項目に対し、肯定的に捉えた児童が増えた(図8・図9)。

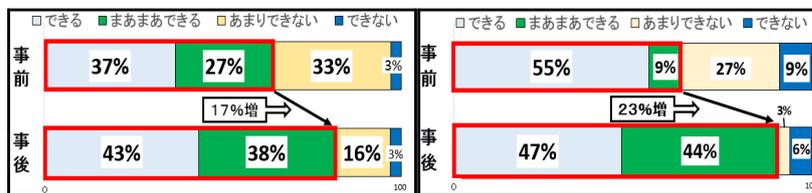


図8 話の内容の足りないところを考えながら聞くことができる

図9 話された内容について、同意を示したり、反論したりする

【考察】

児童Bの交流後に再構築された考えにおいて、友達との交流において、新たな視点を見つけたと考えられる。また、これまで気付かなかつた叙述を関連させていることから、新たな気付きと出合い、読みが深まったと思われる。そして、振り返りから、交流活動が自分の考えを明確にすることに有効であることが分かつた。これらのことから、互いの考えを共有し、自分の考えと比較、分類、関連付け等を行う交流活動を工夫することで、相手の話を聞く視点が明確となり、質問したり、同意・反論したりする対話の意識が高まつたと考える。しかし、児童Cのように、自分の考えを深めることができなかつた児童がいたことから、ただ互いの考えについて対話するのではなく、考えの思考過程を可視化することで明確になつたことを活用し、互いの考えの理由、根拠などを追求する対話につなげていくことが必要だと考える。

VIII 成果と課題

1 成果

- (1) 他者との対話を重ね自分の考えたことや理解したことをワークシートに加筆修正を繰り返して、思考過程を可視化することで明確となり考えの形成につながつた。
- (2) 交流活動において、互いに比較、関連付け等を行うことによって、他者の複数の考えや理由、根拠に出合つたり、これまでの思考過程を見直したりしながら、自分の考えを深めることにつながつた。

2 課題

- (1) 教師が児童へ読み取つた内容や想像したこと、考えたことなどをワークシートに記述させる際に、課題解決を図る言葉かけが不十分である。
- (2) 交流活動の際に、互いの考えの理由、根拠などを追求しながら、思考方法を働かせる対話の工夫が必要である。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領解説国語編』	文部科学省	東洋館出版	2017
『小学校教育課程実践講座国語』	樺山敏郎	ぎょうせい	2017
『表現力を鍛える対話の授業』	長崎伸仁・村田伸宏	明治図書	2011